



大自在

「今すぐ高台や高いビルに避難してください」。きのう早朝、アナウンサーの緊迫した声がテレビから響いた。福島県沖を震源に発生した震度5弱の地震。直後に津波警報が出され、仙台港で1・4メートルの津波を観測。列島中に東日本大震災の恐怖がよみがえった▼現地では東電福島第2原発の3号機で使用済み核燃料プールの冷却設備が一時ストップ。地域によっては避難車両の大渋滞が起きるなど混乱した。被害は比較的少なかったとみられるものの、今後1週間程度は警戒を要するという▼翻ってわが防災先進県。もちろん実際に避難を要する状況でも被害が出たわけでもないが、どれだけの県民が地震・津波をわが身に置き換えて、備えを再確認できたか気になる。

▼もしも震源が駿河湾や遠州灘沖だったら▼通勤、通学と日常が慌ただしく始まろうとする中、恐らくニュースに十分気をとめる時間がなかった人が大半だったろう。しかし、今回の地震を一つの警鐘と受け止め、想像力を働かせることが必要はずだ▼防災専門家は事前対策の重要性を指摘する。避難場所はどこか。介護を要する高齢者や病人をどう連れて逃げるか。離れた家族への安否連絡は…。発災後にできることは限られる。あらかじめ自分なりに避難方法を詰めておくことが命をつなぐ道だ▼熊本、鳥取と相次いだ大地震をよそに本県は今年も静岡が続くが予想される東海地震、南海トラフ巨大地震は日一日と近づいている。あすにも到来する危機に備えて、きのうの教訓をきょう胸に刻まなくてはならない。

2016.11.23

2016年11月23日 朝刊

①テレビのアナウンサーが緊迫した声で放送した訳を考えましょう。

②あなたの家で地震の備えで足りない物を書きましょう。

③あなたが家にいる時大地震が起きた時、どこに避難すればいいか書きましょう。

年 組 名前

(小学校・中学校・高校 理科・総合)